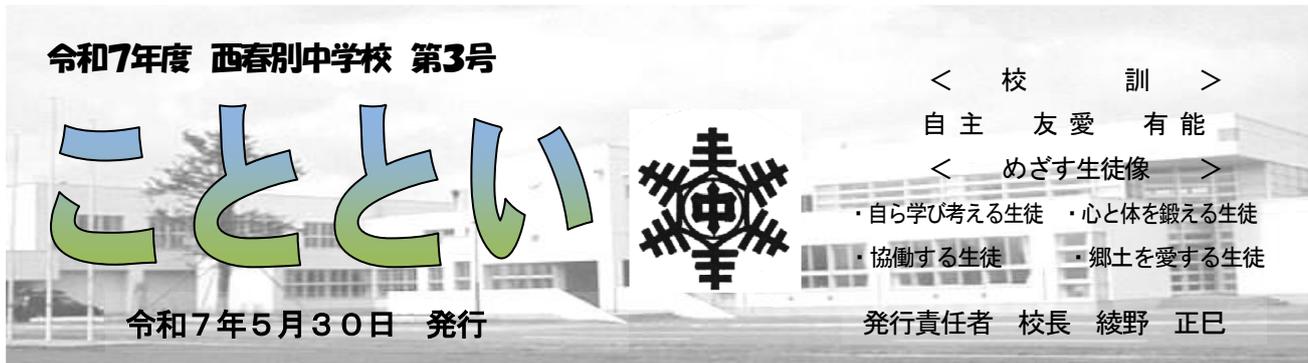


言問い(こととい)：50周年記念植樹イチイに命名されたものです。



**「私たちは発展するために生まれてきたのではない。
幸せになるために生まれてきたのだ」**
西春別中学校長 綾野 正巳

2010年代、世界中で紛争が頻発して混乱する国が出てくる中、世界から注目された人物の言葉です。その人物とは、「世界一貧しい大統領」というキャッチフレーズで有名になった元ウルグアイ大統領「ホセ・ムヒカ」氏のです。ウルグアイの最高権力者となったにも関わらず、一般人も驚くような非常に質素な生活を続け、一般市民がより自由に生活できる社会を目指し、数々の改革を手掛け、実績を上げた方です、そして、何より、国民に愛された大統領でした。ウルグアイでは強力な大統領制で、同じ人物が2期連続で大統領に就任することが禁じられているため、2010—2015年の1期で退任しています。故に、ウルグアイはラテンアメリカ唯一の「完全な民主主義」と評価されています。

今月13日、89歳でホセ・ムヒカ元大統領が死去されました。彼は再び紛争が勃発している今の世界情勢を大いに嘆いていたのではないのでしょうか。

生前、2016年4月に来日した際、自ら希望し、広島市の原爆資料館を訪れ、被爆者の遺品などを見学した後、科学と倫理について次のような言葉を残しました。

「倫理がない科学は考えられないような悪の道具になる」

「歴史は、人間が同じ石でつますく唯一の動物と教えている。私たちはそれを学んだらどうか」

ウエルビーイングが唱えられている日本の未来で、ICT・AIが活躍することが期待されていますが、もうすでに悪の道具になっている側面も見えています。倫理がないICT・AIでは人間を幸せにしないことは自明の理です。そうならないためにも、学校・家庭・地域の教育で子どもたちに正しい倫理観を育てていくことが、より重要になってくるのではないのでしょうか。

他にも、私の好きなホセ・ムヒカ氏の言葉に次のようなものがあります。

「日本の子どもたちよ、急いで大人にならなくていい。子どもであることを楽しみなさい」

子どもが子どもであることを楽しめる社会になっているかが、国の平和の尺度かもしれません。

「世界を変えることはできないかもしれないが、自分自身を変えることはできる」

ひとり一人の「小さな一歩」が、いつか世界を大きく変えることにつながっていくのかもしれない。

「教育を残すこと、それが後世に伝えるべき唯一の富である」

富＝お金では、本当のウエルビーイングが訪れることはないのかもしれない。富＝教育こそウエルビーイングの道標になるのではないのでしょうか。

平和を愛した彼の想いを受け止め、子どもたちが子どもでいることを楽しめる学校、正しい倫理観を身に付けることができる学校でありたいと願っています。

(参考文献) 『世界で一番貧しい大統領と呼ばれたホセ・ムヒカ 心を揺さぶるスピーチ』 国際情勢研究会